

【ねがいましては】

令和6年4月8日

KYOWA SCHOOL

第409号

「生きてやる！」

ある小学六年生の作文です。

ー「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。

そのためには中学、高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。僕は三歳の時から練習を始めています。三歳から七歳までは半年くらいやっていたんですが、三年生の時から今までは三百六十五日中三百六十日は激しい練習をやっています。

だから、一週間中で友達と遊べる時間は五、六時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、その球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズです。ドラフト入団で契約金は一億円以上が目標です。僕が自信のあるのは投手か打撃です。

去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会四試合のうちホームラン三本を打ちました。そして、全体を通した打率は五割八分三厘でした。このように自分でも納得のいく成績でした。だから、この調子でこれからもがんばります。

そして、僕が一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は野球選手です。ー

愛知県西春日井郡豊山小学校六年二組 鈴木一朗

イチローさんが書かれた作文です。

迷いがない。本気。周りに対する配慮。・・・12歳です。「○○しなさい」という「言われたからやっているのだ」がありません。一週間の内、5～6時間だけ友だちと遊ぶことができる。そのことについても何ら悔いなし。1日、1日の積み重ねが自分を築き上げていくことに充実感を持っている。誰が書いた作文なのか、初めて読まれた方には、なんと傲慢な、一見わがままにも思える内容とも受け取れます。そのくらい他を寄せ付けることのない自信に満ち溢れた内容です。12歳としてやるだけのことをやっているという自負が彼をそうさせていたのだらうと感じます。大会での結果もその一つです。

さて、ここまで一つのことにのめりこむことが今の子どもたちには可能なのでしょうか。イチローさんは野球というスポーツの世界にその「夢」を託しました。しかしその他の子どもたちに置かれている環境は果たしてその域に自らを投じることができるのか・・・つまり、学校と自宅との往復だけで時間が流れていく環境下の子どもたちは、はたしてイチローさんのような「夢」を追うことが可能なのかです。

そこで興味深い記事が新聞に載っていました。(熊本日日新聞『論壇』)より

苫野一徳(とまのいっとく)さんという方です。(熊本大学教育学部准教授・哲学者)

題名は「自由を奪う『スタンダード』」です。子どもたちの自由な発想や工夫が根絶されるスタンダードです。内容です。ー例えば「授業スタンダード」→すべての先生の授業のやり方が統一されている。「学習規律のスタンダード」→子どもの持ちものはすべて統一され、机のどの位置に何を置くかまで決められる。「グー・ピタ・ピンスタンダード」→机とおなかの間は「グー」が入るくらいのすき間。足の裏はピタッと床へ。背筋はピン。というわけです。

教育の基本中の基本は何か。教授は訴えます。「信頼して、任せて、支える」。教師も子どもも、成長のために必要なのは、ただ言われたことを言われたとおりにさせられることではなく、自分なりの問いを持ち、試行錯誤し、たっぷり失敗し、その失敗や、また小さな成功体験の積み重ねから「自ら学んでいく」経験だ。「あれをするな、これをするな」「あれをしろ、これをしろ」。そんな「指導」ばかりが飛び交う現場で、一体どうやって人が育つのだろう。ー

そして、別の新聞にも教授の主張が書かれています。(読売新聞『あすへの考』)

ー評価や試験のあり方を見直すことも重要です。教育の評価の本質は、子どもの到達度を把握して一人ひとりの価値を見つけていくことで、成績の評定とは異なります。細かく評定(テスト)を付けられると、子どもは成績を気にして学習に没頭できず効率を考えてしまいます。ー

その通りです。効率とは、いかに短時間・短労働で点を取ることができるか、いかに「楽(らく)」に点を取れるかなのです。それをうたい文句にしている企業が数多く存在していることも現実です。「成績アップ」です。多くの方々がそのキャッチコピーに見事誘われ染まっています。これが現実です。

教授が訴える教育の本質です。「教育とは全ての子どもが自由に生きる力と、互いの自由を認めあう感度を育むためにあると考えます。」

ここから私が感じたことは、子どもは自らが思うことを自由に発信でき、またそれを深く受け止め理解し、自らが必要と判断すれば吸収し、また異なる意思が発生すれば、それを自由に発信することができる。それが教育の本質だと。

私の考える教育の本質です。「生きようとする力を育む」です。つまり前向きな心です。